

こだま通信

56号



[編集] 特定非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西嫁島1-1-19

☎&FAX 0852-28-8162

障害者自立支援法（その後障害者総合支援法に改正）が施行されて11年が経ち、利用者は100万人、予算総額は約1兆円と当初に比べて倍増しています。来年度はそうした状況を踏まえて「障害者総合支援法施行3年後の見直し」がされるとともに報酬改定も行われます。現在、障害福祉サービス等報酬改定検討チームが設置され、来年春に向けて話し合いが行われています。今回はその内容についてお伝えしていきます。

障害者福祉サービス等報酬改定検討チームでは・・・

障害者福祉サービス等報酬改定検討チームで話し合われている大きな論点は5つあります、

第1は、障害の重度化を踏まえた、障害者の地域移行・地域生活を支援するためのサービスの評価と地域生活支援拠点等の整備促進及び地域移行後の生活の場の確保。

第2は、障害児支援のサービス提供体制の確保と質の向上を図る観点からの報酬・人員配置基準等の評価（医療的ケア児への支援及び居宅訪問型児童発達支援の報酬を含む）

第3は、精神障害者の地域移行を推進するための、地域生活拠点等の整備促進及び地域移行後の生活の場の確保とサービス提供体制の強化

第4は、就労支援に係る工賃・賃金の向上や就労移行、就労定着の促進に向けた報酬の見直し

第5は、障害福祉サービス等の持続可能性の確保と効率的かつ効果的にサービスの提供を行うための報酬等の見直し などとなっています。

障害児支援の分野では・・・

障害児支援の分野では、近年医療的ケア児の問題がクローズアップされてきています。医療の高度化や医療機器の小型化によって、在宅での生活が可能になっている子供達が増えて来ている現状と、それを支えている家族の方の介護負担軽減のために、児童デイサービスに居宅訪問型児童発達支援を提供するサービスの創設が考えられています。通所支援を受けるために外出することが困難だった障害児に対して、児童デイサービス等で行われているサービスを自宅で提供してもらえることとなります。

共生型サービスの創設

共生型サービスは、障害者サービスを受けていた方が65歳になると介護保険法のサービスに移行しないといけなくなっているのを、継続して利用していけるような仕組みとして創設されるものです。以前から紹介されている「富山型デイサービス」に代表される形態です。

地域の実情に合わせて、障害者や高齢者のサービスが一体的に実施できることとなります。

緩和要件の厳格化

居宅介護などでは、サービス提供責任者や行動援護や動向援護などでの資格要件が緩和される措置が取られて来てましたが、これらの要件を厳格化していきこうという動きが話し合われているようです。

開所時間減算の取り扱い

生活介護では利用時間の実態を踏まえて、報酬の減算幅の見直しが検討されています。具体的には開所時間が4時間未満の場合50%減算、4時間以上6時間については70%を算定することなどが検討されています。こだまでは、日中活動は一つのサービスでということで、営業時間も9～17時の7時間に設定して来ていましたので、今回の改定があっても大丈夫な状況です。大人の方へのサービスですので「働きに出る」という発想が必要ですね。

今後ますます検討会では具体的な話し合いがされてくると思いますが、小さい事業所だからこその強みを生かして柔軟な対応をしていきたいと考えています。何か不明な点があればこだままでお問合せください。

【山田 久】

2017年・こだま実践報告会

9月15日にいきいきプラザにてNPOこだま実践報告会を行いました。5名の職員が、「行動援護利用者を生活介護で受け入れた実践」「医療的ケアの必要な利用者を迎えての実践」「障がいの重い方を受け入れた実践」「新しい作業に取り組んで（おにぎり作り）」「利用者に寄り添った支援の展開」をテーマにパワーポイントを使用し、それぞれ発表しました。

会場には利用者、保護者の方をはじめ、相談支援機関の職員の方にもきていただき、準備していた会場の座席が全て埋まるほどの大盛況となりました。

それぞれの実践報告を聞いて感じる事ができたのは、こだま職員の利用者の方に対する熱い思いという点です。ある利用者の方のこだまでの10年間の取り組みについて、経過を追っての報告がありました。今日の状況に至るまでの支援の変遷や取り組みがわかり、利用者の方の変わりようについても再認識する機会になりました。

もちろん、私も利用者の方に対し思いを持って日々支援していますが、それを上回る先輩職員の思いを聞くことができました。支援者の思いがあり、今のこだまがあることを痛感しました。そして、思いだけではなく、その思いを形にするにはどうしたら良いか、どのようにして形にしてきたか具体的な実践を勉強する良い機会となりました。

他の職員の考え、体験を聞くことは私にとって、非常にプラスになります。これからも一日一日を大切にしながら、いずれ私も実践報告ができるように日々研鑽していきたいと思えます。当日ご来場頂いた皆様、本当にありがとうございました。

【安部 裕紀大】

発表者の声



私は、発表者の一人として「重い障がい者の支援」についての実践報告を行いました。

今回は私を含め、5名の発表者が選ばれ、それぞれの所属先で実践している取り組みについての報告をしました。全員に与えられた条件は、パワーポイントによる発表です。ほぼ全員が初心者。その為、3週間前からパワーポイントの専属講師を招いて、資料作りに取り組んできました。特に本番1週間前からは連日連夜、作業と模擬発表を繰り返し繰り返し行いました。しかし、不思議なもので、その時間帯には誰一人として辛い表情や疲れた表情も見せずに、反対に笑顔と笑い声に包まれたのです。居心地の良い1週間を過ごせました。気がつけば、発表者の絆が深まっていました。私にとって、報告会という貴重な体験と共に、もう一つ大きな大きな財産を得る事が出来ました。

また、14年間分の写真を整理する機会にもなり、改めて「NPOこだま」の素晴らしさと利用者とその家族への感謝の気持ちが芽生えました。当日は、50人が座れる会議室に立見が出るほどの関係者が来場され、私たちの背中を後押ししていただきました。おかげさまで、5名全員が実力以上の力を発揮し、堂々たる発表ができたと思います。他の職員にも同じような経験を味わってほしいと願います。来年も、ぜひ、開催しましょう。

【生活3担当・渡部健史】

私が支援に入っている利用者の方がこだまを利用して早いもので9年になります。これまでこだままで歩んできた日々について実践報告会で発表することになり、発表時間が15分～20分くらいと聞いて「長いな、そんなに話せるかな」と不安を覚えました。それでも準備をしていくうえで、先輩職員さんにアドバイスをもらいながら、現在の様子を見てもらってから、今までの様子を年表でお伝えしようということになりました。

昔の写真や文章を振り返っていくと嬉しかったことや楽しかったこと、大変だった出来事などたくさんのお話を振り返ることができました。当時、八雲町のログハウスで1対1の支援に入っていたとき、先輩職員さんからかけてもらった助言、全てが自分にとって貴重な財産になっています。結局、実践報告会の発表時間内におさめることはできず、発表者としての難しさも経験させてもらうことができました。

【生活1担当・野津拓馬】

医療的ケアが必要な利用者の方を受け入れてということを発表させていただきました。みんなで一生懸命、前だけを向いて頑張ってきたことを振り返り、それを発表しました。

いろいろなことを思い出しました。色々な方に助けられ、協力してもらい今があるのだと感じるとともに、利用者さんによって、私たちは成長させていただいていることを強く感じました。

今回、利用者の方やご家族の方にもたくさん出席していただきました。発表を通して、そのお礼ができたことが本当に良かったと思います。

実践してきたことが、これで終わりではなく、今後も継続させて、今よりもっともっと良い支援につなげていけるよう、またみんなで頑張っていきたいと思います。また引き続きよろしくお願いいたします。

【看護師・伊藤和枝】

「利用者に寄り添った支援の展開」で話すことになりました。資料を作るにあたり自分の支援を振り返る事が出来たことは良い機会でした。今回、聞き取りをさせていただきました。本人の本当の気持ちを聞かせてもらえ、ありがたいなと思いました。一緒に本人の話を聞きながら、横で涙を流しているお母さんの姿を見て、「もっとヘルパーに任せて下さい」と思いました。自分の思いを伝える。当たり前なことだけど、それが実際には難しかったと言われました。「でもこだまさんが入るようになってからは自分の素直な気持ちを伝える事が出来るようになった」と。自分もブログなどでよく「寄り添う」という言葉を使っていますが、今回その言葉の意味をすごく考える事ができ、ヘルパーとしての自分なりの寄り添う支援の答えをしっかりと見つけたと思います。発表会が終わってからもヘルパー家事力アップ研修が3回開催され、されに高みを目指しているところです。なんとかしてあげたいという気持ちが一番だと思いますが、思いに応えられる知識や技術がないと全然なので、もっと周りから吸収していきたいと思っています。

【ホームヘルプ・井川樹】

私はポレポレの作業活動について、今までみんなで積み上げてきた成果を代表で報告させていただきました。その後たくさんの方々から良かったよと声を掛けて頂きました。たくさんの人たちに支えられて実践報告会に立つことができました。初めて作ったパワーポイントも発表者全員で楽しく作成することが出来ましたし、大変だったはずの準備も楽しくてあっという間に過ぎていきました。これが個人作業だったら途中で投げ出していたかも、、と思います。

3年前から始まったポレポレのおにぎり作りの取り組みを、作業工程ごとの工夫や利用者の方の役割分担、利用者の変化などに視点をあてたまとめをしましたが、振り返ることで色々なことが見えてきて今後に生かしたいと思っています。私にとってとてもよい経験でした。このような場に立たせてもらったこと、感謝しています。

【ポレポレ・森山祐子】

第7回 こだま屋台村

今年も、こだまの一大イベントである「屋台村」を開催しました。今回は、各事業所を食べ歩く方式から、島根青少年館を会場に各部署が一堂に集まって行う形式でした。個人的には初めての形式での屋台村となり、とても楽しみにしていました。

実際に始まると、各部署の屋台がどれくらい盛り上がっているのかが見てわかるので、ライバル部署に負けないように頑張らねば、というような思いにかきたてられました。気になるB級グルメ対決は、「皿うどん」と「タルたこ」が1位を勝ち取りました。しかし、どの部署も票数を伸ばし、僅差での結果となりました。甲乙つけがたいのか、複数のメニューにマルが付けてある用紙もありました。食べてもらった感想で「美味しい」をもらえたなら、結果は関係ありません。「美味しい」の数だけ担当した職員の笑顔も増えるのです。

出し物対決も、両者ともに気合が入っていました。かたやアイドル、かたやヒーローと名勝負になりました。どちらの出し物も、しっかりとした下準備とひたむきな個人・全体練習が実を結び、みんなの記憶にしっかりと刻まれる仕上がりになりました。ゲストの応援用に作ったグッズも「手作りの感じがとても嬉しい」と気に入ってもらえました。今年は、地元で活躍しているマジシャン、シンガーソングライターのお二人に出演していただき、アツと驚く手品の数々や、豊かな声量と本当にすんだ歌声を、こだまの利用者と我われに届けていただき感動の1日になりました。

大盛況のうちに終わった屋台村ですが、課題も多く見られました。「こうすれば良かった」「あんな風にやっておけばもっと楽しかった」と「もっと」の声がたくさん出ています。この「もっと」を次回や他のイベントに活かしながら、来場者や参加者のみなさまが飽きない、常に楽しいと思ってもらえるようなイベントになるようにしていきたいと思っています。これから年末にかけてこだまの行事は続きますが是非期待してください。

【八壁 巖】

当日の様子



オタクがすっかり板につきます

会場はたくさんの方
きていただきました

最後まで誰だか分からなかったようです

子供に大人気
でした奈津子さんの素敵な歌声に
みんな魅了されました。

毎年開催されている屋台村に初参加、初出品させていただきました生活3兼ヘルプの安達です。とても大きなイベントに圧倒されそうでしたが「料理を出す」というポイントが一番緊張しました。しかし、たくさんの方利用者さん、保護者の方々に「おいしかったよ」と言ってもらい、「楽しかったよ」という言葉も本当に嬉しかったです。屋台村全体の感想としては、単純に「あ、自分も参加したい。お客さんとして行きたい」という気持ちでした。

それぐらい熱意があり、おもてなしの気持ちにあふれたイベントだったなと感じました。もうすでに来年は何にしようかなと考えています。【安達和登】

今年の屋台村は私の心に残る忘れられない思い出になりました。皆さんが喜んで食べておられる顔を想像しながら作ったグルメ、職員が丸となって練習し完成した出し物。みんなで心を一つにして出来上がるものって本当に最高です。

【新見和美】

今年の屋台村は晴天で夏くらいの暑さでしたが、たくさんの方が来てくださりとても賑わいました。体験型イベントではクロモジの枝を使った工作をとっても楽しそうに作っている子どもさん達の横で私も一緒に勉強させてもらい、作りました。子どもたちの作品はどれも自由ですばらしいものばかりでした。また来年もみなさんが楽しんでいただけるように職員一同、頑張っていきたいと思います。【藤野知美】

この年になって短いスカートをはいてリズム感のない自分が皆さんの前で踊るなんて思ってもみませんでした。踊れるか心配で不安いっぱいでした。あつと言う間に本番は終わってしまいましたが、3部署の職員が協力し合い1つの出し物を作り上げ、皆さんに喜んでいただけ嬉しく思いました。「お母さん、チョットまちがえたね」と帰ってから息子に言われましたが練習から本番までの時間とっても楽しかったです。そして今回一番苦労したのは生活1の屋台メニュー「タルたこ」でした。たこ焼きを焼く事は好きで慣れているので良かったのですが、本番前日までタルタルソースの味が決まらず正直とっても不安でした。「タルたこ」を担当する職員でレシピを持ち寄り「やってみますか」と、家で何度も何度も作ってみました。中身とタルタルソースの塩梅が本当に難しく悩んだ分、屋台村で「おいしかったよ!」「おかわりいいですか?」というお声を頂きますごく嬉しかったです。

今回の屋台村はスタートするまでドキドキ・ハラハラがいっぱいでした。その分、今までで1番充実した達成感のある屋台村になりました。【山岡智加】

せいかつ1

現在、生活1の作業では「薬草茶づくり」として「クロモジ茶」の製造にとりくんでいます。5月の下旬から作業室の整備を進めていき、ここ数ヶ月でようやく流れができてきたようにおもいます。まずは原材料となるクロモジの収穫に出掛けます。日によって収穫量は違いますが、こだまの軽自動車の荷台がいっぱいになることもあります。そして洗って、葉と枝を乾燥させます。その他の主な作業内容は、枝と葉っぱの仕分け、枝を小さく折っていくポキポキ作業、計量や袋詰めなどがあります。仕分け作業では、枝を持って乾燥した葉っぱをとっていきます。一人で枝を持ってとりくむことができる利用者の方も多く、「一人でできた!」という達成感を味わうこともできます。計量や袋詰めでは、仕分けされた葉や小さく切られた枝をトングやスプーンを使って、決められた量にして、それらが煮出すタイプのお茶になります。新しいお茶パックも決まり、ミキサーを使って粉末にして、ティーバッグタイプもできあがりです。クロモジ茶は温かい状態でもおいしいですが、冷たく冷やした状態でも清涼感を感じることができておいしく飲むことができますよ。徐々に販売にも力を入れていきたいと思っています。「こだまクロモジ茶」どうぞよろしくお願いいたします。

【野津 拓馬】

ほんそご

暑さが和らいで、少しずつ秋めいてきましたね。ほんそごでは、この季節の移り変わりを感じられるような活動を大切にしています。9月は大山で梨を狩り、10月は広島県の高野町でりんごを狩りました。旬のものを自分の手で取り、その場でみんなが一緒に食べる喜びを感じていただけたでしょうか。家族から「普段からあんまり食べないんですよ」と言われていた梨やりんごを、案外にもペロリと食べられることがあります。ほんそごの集団や活動には、不思議な力があるみたいですね。9月から新しい利用者の方も増えてますます賑やかになっていますが、それぞれの利用者の方が自分の居場所を見つけて穏やかに過ごされています

これからも、季節の移り変わりを感じながら、楽しく過ごしていきたいですね。

【別所 泰一】



せいかつ3

産休そして育児休業だった2名の職員が復帰して、ますます賑やかに楽しく活動に取り組んでいる生活3です。先日の屋台村では初体験の職員が多くなか、メニューが決まるまでには時間がかかりましたが、一旦決まれば飲食店でのアルバイト経験を生かす職員や、毎日の主婦業で鍛えた腕を存分に発揮してあっという間に牛すじかけうどん、明太子クリームうどんが出来上がりました。試食会でも評判がよく、屋台村当日は1位狙いでしたが、生活1に僅差で敗れ2位になりました。残念でしたが早速来年のリベンジに燃えています。平日の活動では、年末に向けてのカレンダー作りが始まりました。昨年同様、紙版画で取り組んでいますが、今年は麻紐やプラスチックの緩衝材を使ったりと、なんだか出来上がりが楽しみな活動になっています。生活3では利用者の方の日常的な生活の様子や動きなどに合わせて柔軟な対応をしていくことも大切にしていますが、食事の量が少なくなった利用者の方に盛り付けの工夫をしたり、柔らかい食べ物のお弁当で改善を図っています。移動も車椅子に頼っていた方も、散歩などを通じて脚力がついて、長い距離の自力歩行ができるようになってきて、しばらく車椅子を使わない取り組みを考えています。



ポレポレ

いつも悩まされるのが、学校関係が長期の休みに入る夏場の時期の弁当数の減です。先生方にたくさんの注文をいただいているポレポレにとって夏休みは悩みのたねです。「なくてもいいのに」なんて思ってしまうほど深刻です。おまけにお盆休みも重なり弁当の売り上げはぐっと減るのです。それが今年は夏休みに入っても弁当数は減ることなく順調に売り上げを伸ばしましたなぜかな？考えてみると人と人とのつながりからでした。

今年の夏から学童の子供用弁当を作っています。夏休み期間中の子供たちのお弁当ということで期間中は毎日注文をいただきました。この学童さんと私たちをつないでくれたのはこだまのお母さんたちです。事業所がこだま事務所に近いこともあり生活介護の散歩の様子などを日ごろから目にしておられたそうです。他にも日中一時の事業所が2件、他地区の学童もあと2件からたくさんの注文をいただきました。おかげで今年の夏は弁当数が減ることなくこの時期を乗り越えました。先日も親御さんからポレポレで使ってくださいとたくさんのおからをいただき、おからハンバーグにして弁当に入れました。

このようにいつも皆さんがポレポレのことを考えてくださっているおかげで人と人とのつながりができ、それが弁当数のアップにもなりました。本当にありがたいことです。このことを忘れずお客様を大切に毎日の弁当を丁寧に作っていきこうとポレポレ皆で話し合いました。 【森山 祐子】

ホームヘルプ

10月から職員体制が変わりヘルプも職員が増えました。新しい職員に支援の手順やヘルプの心得を伝える機会がありました。

普段何気なく行っていることでも、書面におこす事で「なるほど」と思う事が多く、改めて考えさせられる事もありました。

その一つに、居宅訪問時の挨拶があります。ご家族とヘルパーの信頼関係が深まり距離が近づくにつれて、大事にしている事を忘れてたりすることがあります。訪問させていただくという感謝の気持ちを言葉で表していく事が大事です。言葉使いも同様で、利用者の方には成人としての対応を意識した言葉使いで、ご家族にはあまりくだけ過ぎず節度を持った言葉使いを心掛ける必要があります。当たり前の事ではありますが「慣れ」によって時に忘れてしまう事もあったり・・・常に初心を忘れる事なく、当たり前をおろそかにしないよう努めていきたいと思ひます。 【曳野美津代】

男性ヘルパーの家事力アップ講座を開きました

これまでこだまのヘルプの依頼は夕方の入浴介助が主でしたが、今年に入って起床・就寝前の着替えやベッドへの移乗、ときには洗濯干し、取り入れなども行うようになってきました。それも一人の方の自宅に複数事業所で入らせてもらうので、身体介護の介護力や家事力が問われるようになってきました。

身体介護の内容についてはこれまでの経験や日常の活動の中で力がついてきているところですが、家事的なことになると、それぞれにばらつきが出てきてしまいます。そこで10月2・10・12日の夕方の時間を利用して『家事力アップ講座』を開きました。第1回は美味しくできる簡単調理法ということで、オムライス、親子丼、キムチ鍋作りを女性ヘルパーさんから教えていただきました。2回目はこだまの洗濯の達人とされているから、洗濯の干し方、たたみ方のついて教えていただきました。チョットした気遣いで仕上がりが違って来る目から鱗の研修になりました。3回目は看護師さんに、ベッドに寝ながらのシーツ交換や優しいオムツ交換の仕方を教えていただきました。受講した男性ヘルパーは自分の不得意とするところが分かっているだけに、時折復唱しながら真剣に受講していました。



今後も、自分たちの家事力、介護力を高めるための講習会を開いて欲しいとの要望が出ています。



お風呂に入って、「はあーっ」とひと息。眠りにつくとき、布団の中で「はあーっ」とひと息。幸せを感じますね。「どうしたら幸せになるのだろうか?」と問われると、大抵は何かを手に入れることとか、何かを達成することだとかを答えます。

ところが、もう一つの幸せのあり方として、何もしないで居ることの幸せがあります。小さい頃、抱っこされて安心して笑っていましたね。何かを手に入れて掴む幸せはつかの間です。飽きてしまうし、逆に手に入れられないと不幸に感じてしまいます。だけど、居場所があることの幸せは、居場所を得て、守られて、そこが安全で周りに気遣いなくポーっとしていただける。小さな幸せかもしれないけれど、生きていくためには大切な幸せですし、それを感じるができる人は、他の誰かにも幸せな居場所を提供できるのではないのでしょうか。

【伊藤 和枝】



子育て頑張ってます!

この度、生活介護1で復帰させて頂いた日野です。十年ぶりの妊娠で、高齢という事もありいろいろとハプニングがありました。しかし皆さんの支えもあり二月に無事男の子を安産で出産することができました。上の子供たちも大喜びで、かわるがわる抱っこしたりあやしたりしています。おかげで育児疲れもなく楽しく毎日を過ごしております。...とはいうものの十年ぶりという事もあり全てが初めてのようで、鼻水や咳が出れば心配になり、熱が出れば慌てふためきといった感じです。先日保育園で離乳食を見てビックリしました。我が家ではまだまだ潰してあげていたのに保育園ではもうすっかり中期食で結構大きく切っており平気でパクパクと食べていました。過保護にならないように気をつけなくちゃと思っているところです。【日野 純子】

出産・育児の為、一年間お休みを頂いておりました。10月からまたこたまで働かせてもらっています、曳野です。さて、この10月11日は立て続けに子どもたちの誕生日があり、どんな風に祝ってあげようかと考える、そんな時間が自分の幸せになっています。10月、1歳になる娘の誕生日を無事に終え、我が家に来てくれてありがと〜と余韻に浸っていたところ、11月に3歳の誕生日を迎える息子から何とも厳しいリクエストが、「いっぺいのたんじょうびは、しょくぱんまんのてづくりけーきがいい♪」・・・ん?しょくぱんまん好きやったっけ?いや、それより今手作りっていった?うわー!前に絵本で読んだ「てづくりけーき」っていうフレーズ、めっちゃ覚えてるやーん!え?仕事復帰したんですけど、、、作ってやれる気がしないー 母、ピンチです。3歳を目前にし、誕生日をかなり意識しているようです。今まで保育園でお友達のお誕生日を何度も祝ってきたのでしよう。10月に妹の誕生日もあったおかげで、「いっぺいもうすぐ3さい」とアピールしてきます。そして今日も夕食中に電気を消して、「はっぴーばーすでーのときはらくするがー」「たんたんたんたんたんじょうび〜♪」とやってみせています。「もうすぐ」の見通しがどのくらいっているのかはわかりませんが、いつか来る自分の特別な日(それは母にとっても特別な日♪)を心待ちにする息子をみて、手作り、、、やってみるか!という気になってきました。盛大でなくても、我が家流で特別な日にしたいと思います。【曳野 碧里】

今年の1月23日に第三子が誕生し、9月21日より生活3に復帰しました。3人目だから大丈夫なんて思っていたら、すっかり忘れた赤ちゃんの育て方。そして小学生になったスーパーマイペースなお姉ちゃん、まだまだ甘えん坊真っ盛りな年長のお兄ちゃん。こたまの子育て中ママや先輩ママたちにたちにアドバイスをもらったりしながらなんとかやっています。

復帰までは色々と不安に思うこともありましたがこたまの人たちが暖かく迎えてくださり、何よりみなさんと一緒にまた作業や活動ができるのがとても楽しいです。こたまで沢山笑ってみなさんの笑顔に癒されて、家に帰ってチビっ子モンスター達と戦う日々です。余裕のある優しいお母さんを目指しがんばります。

【梶野智恵美】